

作物1-3. 稲・長期箱施用剤の概要

長期持続型箱施用剤の系統概要(殺菌剤)

殺菌剤コード	グループ名等	成分名(商品名例)	作用機構等
16.1	メラニン生合成阻害剤(MBI-R剤)	ピロキロン剤(デジタルコラトップ)	いもち病菌の付着器のメラニン生合成を阻害し、稲体への侵入を阻止する。また、すでに形成された病斑上の胞子形成も阻害される。
16.3	メラニン生合成阻害剤(MBI-P剤)	トルプロカルブ剤(サントリブル)	コードの異なる2系統では、メラニン生合成の異なる酵素を阻害する。
P02	抵抗性誘導	プロベナゾール剤(Dr. オリゼ、ビルダー)	本剤処理イネは抗菌物質の増加・いもち病抵抗性関連酵素の活性化または細胞内菌糸進展阻止により、対病原菌抵抗性が誘導される。直接抗菌力がないため予防散布が有効である。
P03		チアジニル剤(ブイゲット) イソチアニル剤(ルーチン)	
P08		ジクロベンチアゾクス剤(ブーン)	

防除上の注意事項

【育苗箱施用剤の使用上の注意(殺菌剤・殺虫剤共通)】

- ① イネの葉が濡れていると薬害を生じやすいので、散布直前の灌水はしない。
- ② 育苗箱の上から均一に散布し、葉についた薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植する。育苗箱の移動時に逆さまにして薬剤を落とさないよう注意する。
- ③ 軟弱徒長苗、むれ苗、移植期を過ぎた老化苗等は薬害を生じる恐れがあるので注意する。
- ④ 本田が砂質土壌の水田や、漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用を避ける。
- ⑤ みのる式育苗等育苗箱を逆さまにして移植する場合は、薬剤が落ちやすいので使用は避ける。
- ⑥ 箱施用剤は、本田を通して年1回とし、作用機構の異なる剤と体系で使用する。

長期持続型箱施用剤の系統概要(殺虫剤)

殺虫剤コード	グループ名等	成分名(商品名例)	作用機構等
2B	フェニルピラゾール系	フィプロニル剤(プリンス) エチプロール剤(キラップ)	抑制性神経伝達物質であるGABAの受容体に作用し、神経伝達を阻害して致死させる。
4A	ネオニコチノイド系	クロロニコチニル系 イミダクロプリド剤(アドマイヤー) チアクロプリド剤(バリアード) ニテンピラム剤(ベストガード) アセタミプリド剤(モスピラン)	アセチルコリン受容体に作用して神経伝達を遮断する。
		チアニコチニル系 チアメトキサム剤(アクタラ) クロチアニジン剤(ダントツ)	クロロニコチニル系と作用点(結合部位)が異なる。
		フラニコチニル系 ジノテフラン剤(スタークル、アルパリン)	
4E	メソイオン系	トリフルメゾピリウム剤(ゼクサロン)	神経伝達物質の働きを阻害し、神経伝達を遮断することにより、殺虫効果を示す。
5	土壌放線菌が産出するマクロライド系(スピノシン系)化合物(生物由来)	スピノサド剤(スピノエース)	チョウ目害虫に効果を示す。ニコチル性受容体に結合し、ナトリウムイオンの細胞流入を促し、昆虫を痙攣させ、麻痺死させる。
9B	ピリジニアゾメチン系	ピメロジン剤(チェス)	食毒と接触毒両作用がある。吸汁行動阻害、後脚麻痺作用、産卵抑制作用等により次世代密度を低下させる。
28	アントラニリックジアミド系(ジアミド系)	クロラントラニプロール剤(フェルテラ)	チョウ目、ハエ目害虫に効果を示す。細胞のリアノジン受容体に作用し、筋収縮を起こさせる。
4F	ネオニコチノイド系	フルピリミン剤(リディア)	神経伝達系に作用し、殺虫効果を発揮する。
未定		オキサソスルフィル剤(アレス)	神経伝達が阻害されて麻痺状態になり、殺虫効果を発揮する。

